



我が國通信事業の發展のために

会長就任の挨拶

電気通信
協会会長
中山次郎

顧みれば当協会は昭和13年創立以来光輝ある歴史を重ねて来た。その会長の榮譽と責務を私がお引受けすることは望外の光榮であるが、果してその重責に堪え得るや否や不敏の身として寒心に堪えない。幸いにして役員並びに会員各位の御鞭撻により、又は先輩並びに關係方面の御援助によつて今後の協会の發展に些かなりとも貢献することが出来れば身に余る光榮である。

私は去る昭和24年通信省を退官後当協会の専務理事として微力を尽くさせて頂いて来た。短い期間ながら当協会がわが国電気通信事業界において有効適切な奉仕をなすべき重要な地位にあることについて認識を深めた。今後の通信機器製造工業界も通信建設工業界と益々多事と思う。

わが国の公衆電気通信サービスは電気通信省の努力によつて昨年迄に大体施設の面でも利用の面でも戦前の数字を凌駕するに至つた。その他の専用通信、私設通信施設においても同様のことと思う。

殊にラジオ界においては、NHKの發展はもとより、新たに民間放送の目覚ましい發展をみており近い将来には、テレビジョン放送も開始されんとしている。

当協会はこの間に処して民間事業者の手足となつて、技術の發達に、生産の向上に、需要の開拓に協力の実を挙げねばならぬ。又關係官庁及び公社の外廓団体の一員としては万般の調査研究に犬馬の勞をとらねばならぬ。又官民の間に立つて緊密な連繋をとることも、輸出貿易の開発に努力することも役目の一つである。私は会長就任に當つて梶井前会長の勞を無にすることなく、且つは個人的ではあるが初代会長であつた私の父の仕事は大過なく継承したい念願である。

幸い協会事務職員陣の陣容も充実している。私は微力を尽くして各位の御期尚に添いたい決心である。重ねて会員並びに關係各位の御鞭撻御支援をお願いする次第である。

明治初年創業以来国営事業であつたわが国の電気通信事業が、今回新しい構想と大きな期待の下に公共企業体日本電信電話公社の運営に移された。その初代總裁に梶井会長が就任せられ、従つて当協会の会長を辞任されるの止むなきに至つた。諸般の情勢から見て同氏の出馬は誠に万人の指さす所であつて、わが国電気通信事業の新しいスタートを飾る一大快事であり、私等電気通信事業關係者の御同慶に堪えぬ所である。併し当協会としては正に晴天の霹靂であつて誠に惜別の念に堪えない。

梶井氏は終戦後間もない昭和21年当會長に就任され、一時休止状態にあつた協会の仕事を、当時の困難な諸事情をよく克服されてこの今日の軌道に乗つた活動にまで復活せられたのである。終戦から今日迄を協会の復興期とするならば今日以後は協会の發展期とも云うべき重大な時期である。この秋に當つて梶井会長を送らねばならぬのは誠に名残り惜しい。私は今回罔らずも理事会の選任に与つて後任の会長の重責をお引受けすることとなつた。